

祥伝社 2970円

ジェイムズ・パターソン著

ジョン・レノン 最後の3日間

The Last Days of John Lennon

評・森本 あんり (神学者
国際基督教大学教授)

奇妙な本である。「最後の3日間」という題なのに、まず四百頁をかけてビートルズの発祥から終焉までを詳細に辿っている。その説明を探すのだが、本書には「まえがき」も「あとがき」もない。いきなり始まっていきなり終わるのである。その「放り出された感」こそ、優れた伝記作家の狙いなのかもしれない。

私の年代でビートルズを聞かずに育った人はいないだろう。どの曲も、自分の青春時代と重なって記憶されている。その日々を思い返す息苦しさ、当時は知る由もなかった仲間内の愛憎。ビートルズが存在しなかった世界を描いた映画もあるくらいで(それはそれで面白いのだが)、彼らが残した巨大な文化的影響は今も消えることがない。

光が強ければ陰も濃い。マーク・チャップマンは、かつて崇拜していたジョンの「イエス・キリストより人気がある」という発言に怒り、

悲劇へ至る道 光と影



◇James Patterson＝
米国の作家。1947年生
まれ。『ナッシュヴィ
ルの殺し屋』でエドガ
ー賞受賞。

殺害の二日前にやってきた。英国では問題にならなかった発言だが、折悪しくアメリカでは福音主義が急速に台頭していた。彼がホテルの部屋に残したのは、「ヨハネ(ジョン)による福音書」が開かれた聖書で、そこには真っ赤な字で「レノン」と書き加えられていたという。そして彼は、自分が殺した男の化身となった。

ビートルズを壊したのはヨーコだ、と当時から言い伝えられてきた。他の妻たちが従順にサンドイッチを渡して退出するのに、彼女はアンプの上に居座ったまままで周囲を苛立たせる。この東洋人アーティストは、伝統的な妻の役割にはまることをきっぱりと拒否したのである。

ベトナム反戦を訴える彼らは、時の政府をも苛立たせた。二人の国外追放を画策したニクソンだが、二人はウォーターゲート事件の公聴会に出席してその大統領の失墜を見た。やがてヨーコが妊娠し、ようやく人道的配慮で彼らは退去を免れる。悲劇の五年前のことである。生きていたら今年八二歳。加藤智子訳。